

國學院大學學術情報リポジトリ

武道授業による教育効果の検証：稽古着使用の意義

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 植原, 吉朗, 上口, 孝文, 山田, 佳弘, 伊藤, 英之, 阿部, 弘生, 園部, 豊 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/00001213

武道授業による教育効果の検証 ―稽古着使用の意義―

植原吉朗、上口孝文、山田佳弘、伊藤英之、阿部弘生、園部 豊

Uehara Kichio, Ueguchi Takafumi, Yamada Yoshihiro, Ito Hideyuki, Abe Hiroo, Sonobe Yutaka

キーワード：武道授業、稽古着（道着）、教育効果

I. はじめに（目的）

平成18年12月の教育基本法全面改正、平成20年1月の中央教育審議会答申を受けて同3月に文部科学省から出された改訂・学習指導要領には、周知のように平成24年から中学校の保健体育科においてダンスと共に武道を必修として扱うことが明記された¹⁾³⁾。すなわち、平成24年度から中学校の正課体育において、武道は男女を問わず学ぶこととなるが、そのねらいとするところは提示されたものの²⁾、どのような効果が期待できるか、また期待されているのかについては、十分に検証されてきたとは言い難い。文科省は改正教育基本法（平成18年）の具現化として「日本の伝統と文化を尊重する」ことを唱え、親は礼儀作法・立ち居振る舞いなどの躰教育を期待し、学校現場は生徒指導や生活管理へ活かされることを望んでいるとも聞かれる³⁾⁴⁾。

ところで教育現場で導入が意識されている武道系の種目といえば、現行学習指導要領に例示記載されている柔道、剣道、相撲などが主で、弓道、なぎなた、合気道、空手など、けっして規制されているわけではない他種目の学習指導計画の提案がなかなか日の目を見ない傾向がある。これは、学校現場での現実的な実施の容易性、またこれまでの実践経験や事例の蓄積の多寡に左右されるためと考えられる¹⁾。

國學院大學では、伝統的に柔道・剣道・弓道を教養系体育授業の中に位置付けてきた。特に弓道の実践は、全国の中・高等教育を見渡しても比較的珍しいと言える。ただ、教材として用意できている物は、柔道では貸出用柔道着と投げ込みマット、剣道では防具（剣道具）と竹刀・木刀類に打込台、弓道では弓・矢・掛け・的・巻藁などにとどまり、学校体育で習得効果を促進する補助教材が充実しているとはまでは言い難い。将来、人間開発学部健康体育学科卒業生が教職に就きより良く武道系種目の指導ができるためには、他種目同様、武道系でも学内に補助教材の増設や活用が望まれる。

筆者は、本学の平成22年度「特色ある教育研究助成」を受け、柔道では前回り受身習得が苦手な学生にバランスボール（直径70cmほどのゴム球）を導入、剣道・弓道ではそれまで学生にジャージ運動着の着用で受講させていたのを、それぞれの道着・袴を導入して教育効果の検証を試みた。

そこで本稿ではまず、本学人間開発学部の科目である基礎実習（剣道）において稽古着（道着）を着用する実践事例を紹介し、その教育的価値や有用性について検討を進めることとした。

Ⅱ. 期待される成果等

これまで一般学生・生徒向けの武道系授業でも、柔道以外では専用の稽古着を着用しての展開は全国的にも稀であった。特に弓道では事例報告はほとんどない。稽古着を学校体育授業で使用することは、教員のみならず生徒にとっても予想以上の困難を伴うと予想されるが、実技展開時の身体運用や所作への効果に加え、衣類の扱い、衛生管理、伝統文化の理解や心の持ち方などの変化に寄与する可能性が示されるのではないかと期待される。将来的には、必修化される中学校正課体育での武道授業展開にも貢献する知見が得られると期待している。

剣道では、防具（剣道具）着用以前に、まず剣道着・袴の的確な着用が必要となる。また、剣道着から防具着用完了までに計8カ所の紐結びが求められる。現代的なジャージ類とは異なり、最初の着装が不備だと動作中に着崩れするばかりでなく下手をすれば事故や怪我に繋がる恐れもある。一見前近代的とも思えるこの不便さを、学生自身が身の安全の確保を自覚する契機とすることも期待している。この「不便の効用」が武道の特長の一つとも言えよう⁴⁾。

Ⅲ. 稽古着着用までの経過

学生の体格にあった剣道着が着用できるようサイズのバランスを考慮しつつ、授業1クラス人数分+予備の剣道着・袴を用意した。ちなみに剣道で使用する袴は股の割れている「馬乗り袴」を使用する。

素材は通常綿製で、雑菌繁殖を抑え生地を強くする効果があるといわれる藍で染められるのが一般的だが、藍染め生地は色落ちが激しく扱いにくいいため、女子には白稽古着とテترون製の白袴、男子には化学繊維性の紺稽古着とテترون製の紺袴を採用した。なお剣道経験者で自前の道着・袴を持つ者には藍染め綿製のものを使用させた。

平成22年度後期第2回目授業時にサイズ合わせをして貸与（第1回目はガイダンス）、写真1・2がその様子である。本来は地肌に着用するのが原則だが、この時は着用法・扱い方を理解することがまず目的であったこと、女子への配慮、また防寒の意味もあって、Tシャツ等の上から着用させた。



写真1



写真2



写真3・4

写真3・4の学生の胸元は、若干はだけ気味であることが見て取れる。これらはまださほど甚だしくない事例だが、実技授業になると柔道着と見紛うくらい乱れる者が現れる。この段階でも、着物の襟をしっかり合わせる習慣がない様子が窺える。

写真5・6は試着後の折りたたみ・片付けの様子である。学生に持ち帰らせる必要から、筋目に沿ってきちんとたたむことを指導した。慣れないこともあり、学生はここで大変な時間を要した。そのためこの日の授業は、試着と片付けだけに費やされた。



写真5・6

一般的に、和装は一定のたたみ方を踏まえることでかなりコンパクトにできるが、学生にはそれを知る良い機会になり得たと考えられる。

Ⅳ. 稽古着着用指導によって認識された課題

1. 帯紐をしっかりと締め付けない（着衣を身体に固定できない）

学生が袴の帯紐を腰部にしっかりと巻き付けず、緩いままで結んでいる事例が散見された。結果、動作が激しくなる稽古（授業）中に袴がずり下がり、着直しを要することがあった。

近年のいわゆる「腰パン」という若者ファッションの影響か、下半身着衣をしっかりと締めない傾向が見られる。ただ動作中の安全確保の観点からは、しっかりと装着することの自覚を促さなくてはならないと思われた。

写真7は、紐の締めが緩かったため袴の腰板が裏返ってしまった事例である。写真8は腰板が垂れや胴紐から外れて下へ落ちている例である。



写真7



写真8

2. 着装の乱れを修正できない（しようとしんない）

道着は動作に伴い襟元がはだけてくるものがしばしばあるが（写真3・4参照）、その修正の仕方（袴の横から手を入れ襟の裾を引き寄せる）を教えても、整えないどころか平然と放置する学生がいた。着装の乱れを直すことが、一般的な見映えだけでなく動作の的確性に影響することを理解させる必要があると思われた。

3. 紐結びの固定があまい（特に後ろ手で結ぶ時）

道着・袴の紐結びにとどまらず、防具の紐結びでもしっかりと固定できない学生は例年多数いる。特に体の後ろで紐を確実に結べない学生は増加している。紐が緩んで防具が外れることが怪我や事故に繋がり危険であることを、紐結びの指導から理解させる必要がある。

また例年、本来の蝶結びでなく「縦結び」が習慣化してしまっている者が多い（写真9参照）。縦結びはこれまでの剣道指導経験上から、



写真9

解けやすい傾向があると認識している。単に「死人結び」として忌み嫌うという指導にとどまらず、安全上の観点から正しい結び方を理解させたい。

V. 授業後（学期末）の、効果と課題検証＜受講生への質問紙調査から＞

前記「特色ある教育研究助成」申請にあたっては、道着着用時と非着用時の差異、身体動作の習熟や道具・道着の扱い、感覚（心の働かせ方）の変化などを、学期末にも検証することを謳った。そこで本研究では、K-SMAPY（本学の学生支援システム）のアンケート機能を活用し、基礎実習（剣道）受講生に対し質問紙調査を実施した。時期は平成22年12月、受講生数36名中の24名（66.7%）から有効回答が収集された。

受講生に回答を求めた項目・内容は以下のとおりである。

- 設問1 道着を着用して、よい（よかった）と思うこと、よくない（よくなかった）と思うことをそれぞれ3点ずつ記述して下さい。
- 設問2 道着を着用することは、うまくできるようになりましたか、それとも困難を感じましたか。またその理由を記述して下さい。
- 設問3 道着の形態や着用法について、現状を維持継承する方がいいのでしょうか、改良すべきでしょうか。またその理由を記述して下さい。
- 設問4 学校体育の授業で、道着を着用することは必要だと思いますか、不要だと思いますか。またその理由を記述して下さい。

以下、項目毎に回答内容を報告する。

1. 道着着用のメリット・デメリット感（Ⅶ. 参照）

1) 受講生がよかったと考えた点は、おおよそ次のように纏められた。

①日常にはなかった体験

剣道経験者以外は、初めて剣道着・袴を着用した学生ばかりである。着用しただけでも好奇心を持たせるのに十分なインパクトがあったと考えられる。

②本来の剣道らしさの実感

様々なスポーツ種目にそれぞれのユニフォームやスタイルがあるように、剣道着・袴は剣道そのものを想起させるアイテムであることを示している。それとともに、初心者には剣道への導入を促す効果があると言えそうである。

③剣道授業への気持ちの切り替え、動機づけ

他の競技スポーツ種目とはちがった気持ちで武道としての剣道に取り組む「モードチェンジ」に道着の着用が奏効しているようである。



④武道的側面などの学習効果

着装から「心を正す」ことの意味を考察するきっかけとなっていることが窺える。

⑤連帯感の醸成

全員が着衣を揃えることで一体感や連帯感を促し、良い雰囲気作りに効果を持つと考えられる。

⑥指導者としての知識の獲得

⑦安全上の意識向上

将来教職を志向する人間開発学部生らしく、道着着用の教育的意味をいかに活用しうるかを意識する姿勢が回答記述にみられたのは素晴らしいと感じた。

2) 一方、受講生がよくなかったと考えた点は、おおよそ次のように纏められた。

①所要時間の増大

剣道着への更衣は、扱いに慣れたとしても他のスポーツ種目のそれより手間がかかり時間を要することがあらためて認識された。

②着付け・扱いの不慣れ

更衣・着脱の方法を理解したとしても、それを確実にするために着付けそのものに習熟しなくてはならず、剣道の技術習得以前に受講生は「課題」を負うことになった。

③保温調節の困難

剣道着素材は従来から綿が中心であり他の素材開発は十分に進んでいないが、敢えて寒暑に立ち向かうことを旨とする剣道の特性を考慮すると、一長一短と言える。

④動作の制約

剣道着の形状は前記の素材の問題とも関連して、機能的と言い難いのは否めない。単に文化的な伝統継承に囚われず、教育的側面から機能性についての検証がなされるべきであろう。

⑤面倒に思う意識

効率化をよしとする社会全般の趨勢が、道着着用の不便さを「面倒である」と学生に意識させるものと思われる。無駄な「不便」は排除しつつ教育に活かせる不便さをいかに維持するかが課題であろう。

⑥道着のかさばり

実技系にかかわらず、学生は多くの教材を持ち歩き自己保管しなくてはならない現状を考慮すると、道着の保管方法も授業運営の一環として対処が求められることと思われる。

⑦授業実施上の問題点

下記Ⅶ. の調査回答を参照すると、着衣指導に「時間がかかりすぎる」と「時間・説明が足りない」



という、一見相反する感想が現れているのがわかる。しかし通底するのは、「着衣指導には周知な準備と入念が必要」ということであると理解された。

2. 着用の困難感

調査で「困難を感じた」と回答したのは、24名中15名（62.5%）であった。ただ、開始当初は困難を感じたが回を重ねるにつれ慣れてきて、問題なく着用できるようになったとの記述が大半を占めた。また自分では正しく着用しているつもりでも周囲から指摘されることで、「着こなし」にはさらに習熟を要することに気付いたという記述も見られた。

3. 改良の要否感

設問3の、道着着用・形態改良の要否については、24名中17名（70.8%）が不要または現状を維持継承すべきと回答した。また、積極的に改良・改善すべきとの回答は皆無であった。

当初、着用に時間がかかる不便さから簡便なものに改良すべきとの回答が相当数あるかと予想したが、意外な結果であった。回答には着用経験の貴重さや伝統文化への憧憬を示す記述も見られた。

また、形態の改善ではなく、現状の着用方法をいかに解りやすく的確にするかの改善提案（例：プリント資料で着用・収納法を説明）があり、いずれにしても現状への肯定感の強さが際立った。

4. 着用そのものの要否について（Ⅶ. 参照）

設問4では、回答者全員が、学校体育の剣道授業で道着を着用することは必要だと肯定した。これは、今回の受講生が基本的に教職を志す学生で占められていることが理由の一つという可能性はあるにしても、それ以上に、武道の特性を理解する上で道着を着用することに意義があると体感したからであることも、自由記述回答から十分に察せられた。

設問1・4のみならず、2・3の自由記述回答にも見るべきものが多くあったが、それらについては弓道授業での調査結果と合わせ別の機会に示すこととしたい。

Ⅵ. まとめにかえて

今回の剣道授業への稽古着・袴の採用、事後の受講生への調査結果から、武道授業に道着着用を導入することが、他のスポーツ種目授業とは異なる武道独特の効果を獲得する上で多大な貢献があるという知見が得られた。筆者は学校体育における武道の教育効果を確信している一人であり、剣道以外の武道についても、その効果検証を今後さらに進めていきたいと考えている。

Ⅶ. 調査回答抜粋

設問1 <道着を着用してよかったこと>

【日常にはなかった体験】

- ・めったに着ることができないものを着ることができた。
- ・剣道着という専門着を着ることは普段の生活ではないので貴重な体験ができて良かったと思う。
- ・今まで一度も道着を着用したことがなかったので、より剣道らしい授業でいい経験ができた。
- ・剣道をやっていない人でも道着を体験できること。(女子)
- ・道着を着る機会を与えられたこと(特に女子は着る機会が少ないと感じるので)。(女子)

【本来の剣道らしさの実感】

- ・実際に道着を着て剣道をすることができたところです。袴も着用することができ、形からではあるが剣道を学ぶことができました。
- ・より現実的な剣道に近付けることができること。
- ・剣道をやっていると実感できる。カッコよかった。
- ・本当の剣道の雰囲気を感じることができた。／・剣道という武道を道着から感じられた。
- ・剣道というものを体で体験することができた。やはり道着をしっかりと身に着けていると実際に体で感じることはたくさんあり、道着の重要性や着付けなど毎回の授業で理解することができた。
- ・道着を着用することで、剣道をやっているといった充実感があつた。
- ・剣道本来の姿で学ぶことができた。(女子)
- ・授業の短い時間だったけれど「剣道」に少しは近づけた気がした。(女子)

【剣道授業への気持ちの切り替え、動機づけ】

- ・道着を着用することで、気持ちを入れ替えることができたところが良かったと思います。道着をしっかりと着け、道場に入るとそれまでの授業とはまた違った気持ちになれば、授業に臨むことができました。
- ・「剣道をやるぞ!」という気持ちに切り替えられた。／・ジャージよりも本格的な気持ちになれる。
- ・剣道本来の格好をすることで授業に対する気持ちが切り替わること。
- ・この剣道授業では、しっかりと剣道着を着たので身が引き締まったと思う。
- ・道着を着ることにより剣道の授業へと切り替えができた。やはり道着があるのとないのとは、気持ちの切り替えや気持ちの入りに大きく影響するのだと感じた。
- ・授業前に着用することによって、気持ちの切り替えにちょうど良かった。
- ・剣道の授業に対するモチベーションが高まった。
- ・雰囲気が出る。／・道着を着用することによって、気合いが入った。(女子)

【武道的側面などの学習効果】

- ・ 躰をきちんとすることで意欲をより持てた。
- ・ 剣道の根本の考え、精神というものを躰によって、学ぶことができた。
- ・ 防具の着装だけでなく、全身の身だしなみ等を気にすることができた。
- ・ 道着の着方や帯の締め方などこの機会でないとは学習する事が出来なかったことを学べた。
- ・ 正しい着方を覚えることができた。また、正しく着る大変さがわかった。
- ・ 着衣の仕方を学び、道着の乱れに気付き、それを直す大切さを学んだ。
- ・ 正しい道着の着方をすることによって礼儀というのを感じた。
- ・ 所作など動きにも気を使えた。／・姿勢が良くなる。／・身だしなみの大切さがわかる。(女子)
- ・ 正式な道着を身に付けることにより細かいチェックがいかに剣道において重要であるかを学べたこと。

【連帯感の醸成】

- ・ 自然と授業全体にまとまりができていたように感じました。それは道着を着用し全員が同じような格好で、同じような気持ちにさせたからではないかと思います。
- ・ 全員が同じものを着用することで見栄えが良くなり、また帰属意識も生まれること。
- ・ 全員で同じ道着を着ることで武道の雰囲気味わえた。
- ・ 教師、生徒共に道着を着用することにより統一性があり、身が引き締まったこと。(女子)

【指導者としての知識の獲得】

- ・ 将来教える側になった時に役立つと思った。
- ・ 将来体育教師になった時に剣道の道着を着られないと恥をかく。
- ・ 将来子供たちに剣道を指導する機会があった際今回の剣道着を着ての講義はとても役に立つと思った。
- ・ 将来、体育の授業を担当したときに道着を着られないという心配がなくなった。
- ・ 着付けをする際、剣道経験者に指導してもらったこと。先生方や剣道経験者に着付けについての注意点や重要なポイントを指導してもらえたのでとてもよかった。
- ・ これから教師を目指すものとして、道着・防具の付け方を知る事ができた。
- ・ 体育の教員を目指す上で参考になり、知識が増えた。(女子)

【安全上の意識向上】

- ・ ほぼ自分に合ったサイズで各自が道着を着用することができた。
- ・ けが防止 (女子) ／・身を守ることができる。(女子) ／・防具をつけても痛くない。(女子)

<道着を着用してよくなかったこと>

【所要時間の増大】

- ・ 授業を始めるのに時間がかかってしまったところです。どうしてもなれるのに時間がかかる

ものであるが、着用するのに時間がかかってしまい授業が始まるのが遅くなってしまったと思います。

- ・毎回始まりと終わりの着替えに時間がかかってしまった。
- ・道着を着るのに時間がかかり授業に響いたこと。
- ・剣道着を着用するための指導があったので木刀や竹刀を持っでの講義が短くなってしまう危険がある。
- ・剣道の前に授業があるため早く来られず、講義のスタートが遅れてしまう。
- ・とても着付けに時間がかかった。授業前の授業があり、授業開始時刻がとても遅くなってしまふ。剣道経験者であれば何とか間に合うだろうが、前授業が長引いてしまったりすると確実に間に合わない。
- ・道着着用で時間がかかってしまった。
- ・時間がかかるので授業の始まりがいつも遅れた。
- ・道着・防具の着装・片づけに時間がかかってしまうこと。
- ・道着を畳むのに慣れるまで、時間がかかってしまった。
- ・慣れるまでに時間がかかる。(女子)
- ・着方を理解するまでに時間がかかった。(女子)
- ・人によっては時間がかかってしまう。(女子)
- ・初めは着方がよくわからず時間がかかり授業時間が短くなってしまったこと。(女子)

【着付け・扱いの不慣れ】

- ・慣れていないので何回もほどけたりしてしまった。
- ・かたづけが大変だった。
- ・正しく着こなさないと道着がはだけ、ひもを踏んだりして怪我する原因になる。
- ・今まで着たことがなかったので最初は落ち着かなかった。
- ・練習するにつれて道着が崩れてしまうので一回一回見直しが必要となり、その度に集中力が散漫になってしまった。
- ・着衣が乱れやすい。
- ・自分に合ったサイズがなく、すぐはだけてしまった。
- ・新しかったせいもあるが、道着が堅かった。(女子)
- ・慣れるまでたたむことが上手く出来ない。(女子)
- ・だらしないと目立ってしまう。(女子)

【保温調節の困難】

- ・冬だからましだったが、夏は暑いと思う。
- ・冬場は少し寒く感じることもあると思う。
- ・体が暖まるまでが寒い。

- ・道着を着用して、少し寒かった。
- ・寒さの調節ができない。(女子)

【動作の制約】

- ・慣れていないから動きにくい。
- ・普段着よりサイズが大きいので動きにくかった。
- ・立ち上がりや座る際、少し動きにくい。(女子)

【面倒に思う意識】

- ・着るのが少しめんどくさい。／・面倒である。

【道着のかさばり】

- ・荷物になってしまった。
- ・かさばるのでロッカーに入れにくい。／・保管場所に困った。
- ・道着を持ち帰ることが、あまりできない。／・重くて大変。

【授業実施上の問題点】

- ・使いまわしであるため、後続の受講生が不快がる可能性が・・・
- ・着付けに関しての説明が長い。やはり初体験の人も多く、着付けについての説明がどうしても長くなってしまっていた。最初の授業で着付けについてプリントなどを配っておくなどもう少し考えてくれれば実技の時間をもう少し増やせたと思う。
- ・道着の保存方法や手入れの仕方などもう少し説明が欲しかった。更衣室で道着を雑にたたんでいる人も多かったのでそのところの指示ももう少し強くしていたほうが良かったと思う。
- ・着付けを学ぶ時間が少なかったこと。(女子)

設問4＜道着着用が必要と思う理由＞

- ・学校体育の授業で、道着を着用することは必要だと思います。それは、今回私が本講義を受け、道着を着用することで、「剣道」というものを少しは感じ取ることが出来たように思うからです。道着を着用することで、気持ちを切り替えられ、より集中して授業に臨めました。これは、精神性を重んじる武道にとってはよいことなのではないかと感じます。
- ・私は、普段は球技スポーツをやっているため、道着を着ることがないのでとてもよい機会であった。なので、私は道着を着ることは良いと思う。ただ、なれないと着替えなどに時間が掛かってしまうので50分の授業などには不要だと思う。
- ・ジャージではなく道着を着ることで、剣道とはどういった競技なのかよりわかると思うし、どうせやるなら本格的にやることに越したことはないと思う。
- ・日本の武道としてやるからにはきちんと道着を着てやるべきだと思います。
- ・今回の授業で剣道を履修しなければ道着を着る機会は多分無いと思うからです。それに剣道をやるうえでは、やはり道着を着た方がより実感が湧くし、それなりの気持ちで毎回の授業を受けられると思うからです。本格的な方がやってて楽しく感じられました。

- ・たとえ将来使うことがないにしろ、覚えておいても決して損はないし、着ることによって危険性が低くなると思うからである。
- ・剣道では剣道着を着るのが当然であるし、剣道着というものを生徒全員が着ると場の空気に一体感が生まれると思う。ジャージや体操着だと遊び感覚も混ざってしまう気がする。剣道のように木刀や竹刀など危険な道具を扱う種目は集中力を維持させるためにも道着等、ユニフォームを着用させるべきだと考える。
- ・武道をする上で道着の役割は大きいと思います。道着を着たからこそ分かるという部分もあるかもしれないからです。授業に対するやる気や、授業態度も変わったと思うからです。
- ・やはり、道着を身に着けているのといないのとでは、授業の入り方や気合の入り方の違いが大いにあると感じた。また、着付けについても深く学べることができるし、実際の剣道というものを体で感じるができると思うからである。
- ・道着を着ることで気を引き締めるという感覚を学べますし、全員で同じ道着を着用することで日本の伝統芸能（注：記述のまま）である武道の雰囲気を感じることができます。実際に自分も今回の授業で道着を着ることで武道というものの雰囲気を感じることができました。
- ・道着を着ることによって、剣道に集中することができると思う。また、衣服の乱れは心の乱れという言葉から、いかに道着を正しく着用し心を落ち着かせるかを体感することができると思う。
- ・道着を着用することによって、気持ちを切り替えることができ、より授業に集中することができるようになると思うからである。
- ・実際にそのスポーツを楽しく学んでもらうために道着・防具をつけてやった方が、動きや技を学ぶ事ができ、とても楽しいと思う。
- ・やはり社会に出た時にしっかりと身の着こなしはとても大切だと思います。そういう理由で道着を着用し学校の体育の授業で道着を着用させることは、社会に出た時の身の着こなし方やマナーなどに少しでもプラスになると思います。また剣道をやるのに気合いが高まるし、より授業で集中して行えて、怪我をしにくくなるのではないかと思います。

(以下、女子)

- ・日本の伝統文化に触れる機会が減った今にとってとてもよい機会だと思うから。
- ・中高の授業でも剣道を行うことはあってもジャージに防具という格好であったと思います。普段では道着を着る機会などないので、学校の授業で袴などを身に付ける機会を与えることは良いことではないかと思う。
- ・武道の授業では、しっかりと道着を着用し、心も体も剣道に集中することが大切だと思います。私自身、道着を着用することによって、剣道の授業を受ける気合いも増したからです。着用方法を理解することによって、より剣道に対する知識も深まると思います。
- ・着用に時間はかかってしまうかもしれませんが、形から入ることで少しでも興味を持っても

らえると思うし、着ることによって気分も変わると思うのでただ竹刀の振り方や作法を教えるだけではなく、道着着用もしたほうがいいと思います。

- ・ 多少時間がかかって実技の内容が少し短くなってしまうけれど、着用することで、心身ともに引き締まるし、身だしなみ・見た目の綺麗さがわかることもできるからです。
- ・ きちんと着られるまで時間もかかったし、まだまだなところもあるかと思いますが、学校体育の授業であっても、道着を着ることにより気持ちが引き締まりやる気が出るからです。また授業内で着装時の安全の注意などを習ったが、昔から伝わることもあり、なるほどと、とても勉強になったと感じたからです。
- ・ 私自身、初めは道着の着用が難しく、正直面倒だと感じて居ましたが、慣れることにより着用できるという達成感を得ることができました。また、道着を着ることができるのは日本人として誇りに思えると感じたからです。

【主な参考資料】

- 1) 平成21年度文部科学省指定「武道・ダンス必修化に向けた地域連携指導実践校」実践報告書、東広島市地域連携指導推進協力者会議編、平成22（2010）年3月。
- 2) 中村民雄「中学校武道必修化について」、武道学研究42-3：1-9、2010。
- 3) 鬼澤佳弘「中学校武道の必修化」、武道学研究41-3：35-41、2009。
- 4) 植原吉朗「武道ならではの効果を指導者が的確に示していけるか」、剣道日本平成20年11月号：52-57、2008。

（うへはらきちお・國學院大學人間開発学部健康体育学科教授、うめぐちたかふみ・同学科教授、やまだよしひろ・同学科准教授、いとうひでゆき・同学科助手、あべひろお・同学科助手、そのべゆたか・日本体育大学大学院）